

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'94 秋

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦人会館内 T151

振替 〇〇一九〇・一九一八九一

発行 一九九四年十月九日

男の子の生活的自立

樋口 恵子

「家族」をテーマに、この七月、広島でアジア六か国から女性講師を招き、国際フォーラムが開かれた。基調講演が外国を代表してタイのチェラロンコン大学副学長、日本から私。他の参加国は、韓国、マレーシア、シンガポール、中国、そして日本から五人。ことは広島でアジア競技大会が開かれるが、そのプレ・イベントである。

最後の全体会で、アジアの一人の講師が、「男の子の教育の必要性」を具体的に語って、会場を湧かせた。「身の周りのことを手伝ってあげているお母さんはいませんか？」などと言って。「息子を自立させるなんて、まどろっこしいことを言わないで、いちばん身近かな夫を変えるのですよ」とつけ加えたのは、タイの副学長。「男の子の家事教育」の必要

性について、その後も発言が続いた。

アジアでは、一般に中流以上は家事使用人がいることが多く、これまであまり「男の子の自立」は話題にならなかった。教育における男女差と言えば、いつも女の子への教育と一緒に学校教育の遅れが指摘される。事実、当日配布された資料を見ても、非識字率は日本とフィリピンを除き、女性が二〜七倍も高い。でも開発の波は、アジアの実態と意識を変えているようだ。「男の子の生活的自立」がアジアの中心的テーマになる日も遠くないのではないか。

国際家族年の宣言書の「男性」の項でも、男性が家庭生活教育 (family life education) をひろく受け、家事育児ができるよい父親像を目指すことを示唆している。

もくじ

男の子の生活的自立	(1)
マス・メディアは共修家庭科をどう取り上げたか	(2)
各都県から	
大宮高校問題で教員に質問	(3)
共修元年東京都では	(4)
神奈川県の共修の状況	(4)
男子高校家庭科授業チームを組んで出発	(6)
早稲田大学高等学院訪問	(7)
いろいろな集会から	
家庭科教育学会のシンポジウム	(8)
全私研報告	(9)
高校家庭科の状況(家教連集会)	(10)
家教連夏季研究集会の報告	(11)
Weフォーラムでは	(11)
母親大会・分科会	(12)
これでよいのか? 男女共学の家庭科(性を語る会)	(12)
男女共同参画型社会づくりへ向けての全国会議	(13)
国際婦人年連絡会の動き	(14)
世話人会報告	(16)

マス・メディアは共修

家庭科をどう取り上げたか

半田 たつ子

夏号に「彼の勉強に期待したい」と記したNHK「くらしのジャナル」のディレクターT氏。期待通りの勉強だったようで、五月三十一日、男子の家庭科を取り上げた番組はなかなかよく出来ていた。ゲストは、会員でお茶の水女子大の牧野カツコ氏、アメリカの家庭科教科書についての研究をもとに適切なコメントをされたが、何よりよかったのは、T氏が関西まで取材に出かけ、男の一年生高校家庭科教師N氏の日常を紹介したことだ。

N氏が、タイ米のおいしい食べ方をまず自宅で実習し、初めての調理実習で汗を拭きつつ教え、ややおぼつかない包丁さばきに、「先生がんばって！」の声もかかる教室風景は、文句なしに楽しく、家庭科の新世紀を語った。ベテラン女性教師によるロールプレイを取り入れた家族の授業も面白く、取材の妙が光った。この番組を見た人は、家庭科に関する固定概念を改めたことだろう。

一つだけ注文をつけるなら、「役に立つ家庭科」をめぐる問題だ。「単身赴任した時、共働きをする時」など、将来に役に立つので

はなく、高校生の現在にも役に立つということが、アメリカの教科書の実用教科などから語られたが、これは家庭科の実用教科としての側面を強調したものだ。役に立つのはよいことだが、役に立つ・立たないを突きつけたところにある、家庭科の教育的意義に気付かせる内容であってほしい。

T氏には、よい番組だったが、ぜひこの続編を期待すると伝えた。さらに突っ込んだ番組が生れることを願う。この番組の成功は、家庭科の先生の姿を紹介したところにある。もう「論」ではなくて、「実践」が語られなければならない時なのだから。

NHK教育テレビの「男と女の生活学」はパッとしないので残念だ。家庭科の内容そのものを取り上げながら、番組をリードするのが、年配のアナウンサーで、家庭科教師はゲストのよう。もう一人のゲストはテレビ出演に馴れているから、ゲストとしても精彩を欠き、家庭科への熱意が伝わらない。せっかく一年間の枠を持てたのだから、出演の家庭科教師は、もっと生き生きと自分の情熱をぶつけるべきだと思う。

新聞の報道について述べるスペースが乏しくなった。「高校家庭科授業の男女共修 違和感なく出足快調」(5/9 読売)は会

各都県から

大宮高校問題で教委に質問

柴田 栄子

埼玉県立大宮高校の「家庭科女子のみ履修問題」は、「まさか」と「やっぱり」という相半ばする気持ちで受けとめた。

6月初め、県の研究会総会終了後、地区別に別れて、共修スタート2か月後の感想などを報告し合った。主な内容は、どんな分野からスタートしたか、教育課程にはどう位置づいているか、生徒の受けとめ方はどうかなどだったが、この報告を聞く限り、どの高校においてもまずは順調にスタートしたという印象を持っていた。3単位でスタートしたが、7年度新入生は4単位になったという学校もあった。(今考えるところの時、大宮高校の家庭科教師は欠席していたので、この高校の事があとで新聞沙汰になるなどとはだれも思っていないかったに違いない)

3から4単位になった学校は、家庭科教師

のこれまでの働きかけもあるが、校長(県教委の指導)の姿勢にもよる。この大宮高校はこの様な指導には耳を貸さず、最初からごまかすつもりでスタートしたとしか考えられない。また、一方で、表向きは共修を掲げながらも「1単位減も可」の通知を出したり、教員の不足や予算の不備を理由に消極的姿勢が見え隠れした県教委の姿勢にも責任があらう(県は本当にやるのだろうか……と校長たちは探り合っていたようである)

さて、記事の顛末は半田さんの報告にあるのでここではその後の対応について報告する。実は新聞報道のあった直前、県議会で家庭科の共修についての質問に対し、教育長は「教育課程表どおり実施されているものと思う」と答弁した。この発言が虚偽であることが翌日の新聞で明らかになり、指導二課では、県下の各高校に教育課程表どおりやっているかの電話調査をやっている。

新聞報道の翌日、埼玉高等学校教員組合の女性部は、次のような緊急要請と質問書を教育委員会委員長あてに出した。

員の芦谷薫さん、柴田栄子さんの授業と発言を紹介し、私のコメントで結ぶ明るい報道。しかし、同新聞5/18多摩版は「『家庭科』男女とも必修で対応さままま 男子校、進学校は困難」の見出し。中を読めば、生徒は歓迎していると、最後に述べているが、見出ししか読まない人は、やっぱりね、と思うだろう。

6/28朝日が埼玉県立大宮高校の「男子に家庭科習わせず」を報じた。(家庭科は「習う」ものなのか?)続いて埼玉版、「ニュース探る追う」で、この問題を掘り下げている。また日本教育新聞7/2は、6段組で「減単位は……『男子はどう?』 高校家庭科思惑が交錯する中 心配よそに生徒は『当然』」と報じ、朝日全国版は7/18、大宮高校で男子に家庭科を履修させないことが、県議会で問題になったことを載せた。男性議員の「常識や適性からみて、一七、八歳の男が高等教育で家庭科をやるのは不自然だ」「受験勉強でもした方がよっぽどいい」「今はコンビニエンスストアもあるし、買えばいい」には、呆れを越して悲しくなる。埼玉の県民は、こういう人を議員に選んだのか!新聞の載る写真、女子栄養大で家庭科の資格取得中の男性教師が、コックススタイルなのも気になる。大人の吹切れない固定概念と、屈託ない高校生との対比を思う。(八月一日)

1教科書の採択や需要数から、男子が履修しないことは明らかであったにもかかわらず、黙認していったその経緯と責任を明らかにすること。

2同じような事が他校でも起きないように調査し、責任をもって取り組むこと。

3今回のことは2単位3単位履修を安易に認めてきた県の姿勢の中で生じた問題である。

4単位履修が行われるように取組、その見通しを明らかにすること。

4大宮高校は男女共学でありながら、男女別学級編成を続けてきたことと関係があると考えられるが、このことについて教育委員会としてどう考えるか(いずれも要旨のみ)

これについての解答はまだ得ていない。

7/18日の全国版にのった記事には、呆れ腹が立つ。この記事に対して、仲間の一人が論壇に投稿したが取り上げられなかった。

「男子の進学校に家庭科履修の考えがある」と指摘した岡真知子議員は昨年私たちの対県交渉に立ち会ってくださった議員である。「コンビニもあるし……」と全くわかっていない二人の男性議員の選出地区やプロフィールを突き止めたので、今後はこの議員に対する働きかけを仲間たちとしなければと考えている。

共修元年東京都では

芦谷 薫

(1) 都立高校全日制課程平成六年度入学生
の男女必修家庭科の実施予定状況(都調査)

①実施科目

「家庭一般」一九六校 二一〇学科
(九四%)

「生活一般」十二校 十二学科(五%)

「生活技術」一校 一学科(一%)

②単位数

普通科 : 4単位……一五四校

(一五四校) 3単位……〇校

専門家 : 4単位……五一校

(六九校) 3単位……一八校

③設置学年

普通科 : 1年……〇校

(一五四校) 1年2年……一四〇校

2年……〇校

2年3年……八校

3年……〇校

その他……六校

専門科 : 1年……九校

(六九校) 1年2年……十四校

2年……三校

2年3年……三三校

3年……十校

(2) 中田道夫東京都教育庁指導部高等学校指導課課長からは、東京都高等学校家庭科教育研究会の今年の総会(五月)で、東京都の取り組みとして「普通科高校では、新教育課程の家庭科は四単位の方向でやっていく。従って新教育課程の完成年度までには普通科のどの学校も四単位の設置になるよう指導していく」という内容の説明があった。

(3) 今年の四月に三二人の新任があり、普通科では、半数弱の高校で選任教員の複数配置になった。選任の家庭科教員がいる工業高校は、二七校中七校になった。

(4) 今年から始まった家庭科教員養成事業は、学芸大学でおこなわれていて、十八人の他、教科の教員が受講している。ある受講者は、「家庭科がこんなにももしろい教科だったとは!」という感想を述べたという。

◆東京の高校では、普通科、商業に関する学

科、農業に関する学科のすべてが、四単位の家庭科を予定している、工業に関する学科は一部は四単位、一部は三単位の予定とされているという。ところで(1)の調査結果の③設置学年については「その他」という項目がある。その他という項目の数はどうということなのだろうか?これらの学校ではこの四月の入学時、新入生や保護者にどのようなカリキュラムを提示し説明したのだろうか?

神奈川県の共修の状況

高松 天子

◇公立高校では

新しい家庭科を目指して、神奈川の公立高校も今春から男女共修が順調にスタートした。約百八十校ある中で、昨春までに早めて共修を実施した高校は約四十校あり、準備の整わ

なかった工業高校四校程を残して、全高校幸に家庭科共修元年を迎えた。中学校からの履修、周りの先生方の理解も重なり、男子生徒女子生徒共に抵抗なく生々と学習している。科目も普通科は勿論のこと職業高校に於ても家庭一般がほとんどで、生活一般選択高校は片手にもならない。それも一、二年で各二単位(ごく一部に二、三年各二単位)で履修させている。

ただ教員数に於いて専任不足である。平成五年～六年に全県約七十名増員が必要なところ、平成五年度の採用は約二十名であった。今春からは財政難ということで欠員臨任もなくなり、残る時数は総て時間講師でまかなっている。二十時間を講師で埋めた学校もある。さらにこの時間講師も財源不足から、他府県のように代替教員になる可能性もあるとのことだが、代替教員だけは止めて欲しい。人間教育として大切な家庭科教育に、長い目で見た教育投資を何とか工夫してやっていただきたいものである。なお本県にも男性教員が誕生したことは家庭科男女共修の到来として喜ばしいことである。

◇私立高校では

さて、神奈川県私立高校であるが、七十五校あり、二十四校が男女共学校、十三校が

校名	開始年度	科目	単位数 学年	教師	教室
浅野	1994	家庭科	②単位必須 1年	専任、講師	新築
聖光学園	1994	生活一般	②① 1 2 キャンプ	内部代替	
横浜商科大学	1995	生活一般			
横浜	1994	家庭一般	② ②選択 1 3	専任、講師	改造
慶応義塾	1994	生活一般	② 1	内部、専任	未(座学)
武相	1994	生活一般	② ② 1 2	専任、講師	改造(理科)
桐蔭学園	1994	家庭一般	② 1	内部代替	医学(保健)情報 処理(理科)家庭 経済・法律(大学)
法政大学第二	1995	生活一般	② ② 1 3	専任、講師	
サレジオ学院	1994	生活一般	② 1	内部代替	来年度家庭科室 新築
栄光学園	1994	生活一般	② 1	講師	別に倫理を教えている
鎌倉学園	1995	生活一般	② 1	内部代替	改築(コンピュータ室に)
藤嶺学園藤沢	1994		② ② 1 2	講師	学園内 女子高借用
藤沢商業	1996	生活一般	② 3	講師	
逗子開成	1995	生活一般	② ② 2 3	内部代替	空教室利用

男子校である。県の私学宗教課によれば、男子校・男女共学校総て、新カリキュラム編成に家庭科が組み込まれて提出されているが、詳細はわからないとのことであった。共修を進める会で個々に調べた結果を見ると、取り組みに消極的な態度が見える。埼玉県

所沢高校、長野の上田高校の様に家庭科の授業が受験に役立っている実例もあるのだから、家庭科の共修の意義を真に理解して、代替でなく、積極的に取り入れていただきたいものである。男子校中心に電話等で問い合わせた結果を表にして報告する。

男子高校家庭科授業

チームを組んで出発

海城・目黒高校家庭科講師グループ

小竹 千香子

グループ員で2校の男子校家庭科に関わっていることに興味をもたれ、いきさつを問われる。諸般の事情からの試行である。

事情の一つは勤務していたお茶の水女子大附属校の新設調理室の見学来訪や授業公開を介して男子校関係者の家庭科導入への当惑や及び腰にも立ち合っていたこと、一つは出身学科同窓会の企業関係者の要望を発端にした情報交流のネットづくりで教職への再就職、転職希望者のリストアップをしていたことの二つが基底にある(91・92年)

一員であった学校厨房調査委員会の研究成果のモデル役割担当と関係企業の好意受入れによる実習室設備全面改修計画の成り行きが到来した時、是非にも男女必修家庭科発足へ祝意をいただく好機としたく内外関係者の全面的協力にあずかった。ユニークなデザイン指向を退け、男子校の新設ケースにも参考に

なるよう普遍的な設備配置を基本に最新の機能、維持管理と安全の工夫、身長差、省スペース、作業効率への配慮、映像視聴、空調の効く実習室が誕生した。

定年後、講師1年を延長して2年間、外部からの見学要請に応える過程のなかに器具用具、人事にまで波及する質問がでるのだった。新規導入校の生みの苦勞に連帯し先行経験を分かちことも仕事のうちと考え、後任の専任教師と手分けし器具、食器、年間消耗品一覧を作成しサービスに備え、人事は隣接する同窓会館の相談窓口を紹介したがブローメランのように話が戻り、先のリストを基にしきり役に任じてわが身も4月末、渦中の人である。一人で胸をたたく適任者が出ないため元教師、元研究員、元会社員、現役引退教師(40・60歳代)各人のライフステージにある可能性をつないだチームができた。

目黒高校(94年度 普通科10、機械科4級)は本腰をいれた調理実習室をつくり実習助手を採用のうえメンバーから一人、専任を固定し講師3人による生活一般4単位履修である。海城高校(94年度 10級)は講師5人による生活一般2単位、特設実習室はないが視聴設備が活用できる。

スクールカラーそれぞれに特色ある2校の

家庭科の授業展開は多少異なる。実習室活用、助手の活躍に支えられる目黒では教材を統一しているが海城では各自の自由裁量を大きくして同じ導入教材でも多様な展開となり相互に経験を交流している。

夏休暇直前、チームの年長は疲労色濃く家庭責任に新しく社会参加をプラスしたメンバーは生き生きした表情になっていた。体力も知力もフル転回を要求する両校の生徒に鍛えられる一学期であった。

共学校で教師が肩透かしを食ったほどの男子生徒の自然な授業態度の様子が伝わってきた。出身科同窓会で有名大学傘下にある附属男子校の家庭科担当者は「案するより生むがやすし」でしたと話題提供し、さらに7月末の私学の実践報告会でも先の附属兄弟校の報告者は進学エスカレーターへの優先順位獲得意識から日常の授業成立は容易という正直な報告を聴く。レポーターに若々しい魅力があったことを差し引いてもこの進学構造とは無縁である故の私の生徒達の誠に正直な反応は家庭科教師の力量を秤り叱咤して止まない。

教科受入れの好意的な配慮があっても生徒の学習意欲喚起は教科担当者にある現実足厳しく楽観の気分ではない。一人では落ち込むところチーム員の支えあい大きい。

早稲田大学高等学院 訪問の報告

石渡 仁子

去る七月七日、上石神井の早稲田大学高等学院を、家庭科の男女共修がされているかどうか知らずして、和田典子さんと訪問した。生徒数一学年約六百名にて、卒業生全員が早稲田大学に進学する男子校である。

実は共修をすすめる会では、二年前和田典子さんが学院の先生方に、家庭科の男女共修について説明に来ている。当時の学院の先生方は、保護者がしっかりしているので家庭で教育できるとか、本学院の優秀な男子生徒を女の先生が教えることができるのか等の反対意見が強かったという。従って、教務主任の先生から今春すでに男女共修に入っている事を知らされた時の驚きは大きかった。

本学院では、法律はきちんと守ろうと云う早稲田精神の下に開講された由。高校での第二外国語の履修、文系理系に片よらない進路状況等の諸事情から家庭科を入れたカリキュラムを組むのに苦勞され、生活一般にて一年生二単位必須、三年生二単位選択と決め、四単位必須は苦しいとの事であった。

教師陣は専任一名(五十代)講師一名(三十代)の経験豊富で優秀な方が採用されていた。学生食堂の一劃を改築して作られた調理室・家庭科準備室の設備設計は、専任の先生の意向を尊重して、食物専用に近代的に整えられており、さすが早稲田をバックの大きさを感ぜさせられた。従って被服実習室はなく被服実習は、ホームルームクラスで手縫いの短パンを作る予定との事であった。

本学院の生徒は、中学ではほとんどの者が家庭科を履修して来ており、男子生徒も男性女

性に関係なく家庭科を必要と思っている事、興味の差は個人差が大きい、質問が多く、実習意欲が特にすぐて提出物の提出状況も良い(家庭科の成績も進路に味される為)との事、学院の先生方のサイドフォローも大きく、わけても本学院長の家庭科に対する理解は非常に深いとの事であり、さらに父母の反応も一学期末の面談が楽しみとの事でした。94年度新入生からの新教育課程は左の表の通りです。

(数字は週時間数、※は1科目選択)

教科	1 年		2 年 (予定)		3 年 (予定)	
	科目		科目		科目	
国語	国語 I	4	国語 II	4	現代文	2
					国語表現	1
地理			地理 B	2		
歴史			世界史 B	3	日本史 B	2
公民	倫理	2			政治・経済	2
数学	数学 I	4	数学 II	2	数学 III	2
			数学 A	2		
理科	物理 I B	2			生物 I B	2
	化学 I B	2				
体育	体育	3	体育	3	体育	3
保健	保健	1	保健	1		
芸術	音楽 I		音楽 II			
	美術 I	2*	美術 II	1*		
	書道 I		書道 II			
外国語	英語 I	4	英語 II	4	リーディング	3
	オーラルコミュニケーション B	2	オーラルコミュニケーション A	1		
	ドイツ語		ドイツ語		ドイツ語	2*
	フランス語	3*	フランス語	4*	フランス語	
	ロシア語		ロシア語		ロシア語	
家庭生活	生活一般	2				
選択科目			コース別選択	4	コース別選択	8
			選択科目 B (2)		選択科目 A	6
H R	H R	1	H R	1	H R	1
合計		32		32(34)		34

いろいろな集會から

家庭科教育学会の

シンポジウムから

立山 ちづ子

日本家庭科教育学会第三七大会が、去る六月二五、二六日に国立教育会館で開かれた。

研究発表は六四。衣領域6、住領域3、食領域9、高齢者問題9、保育領域5、家族領域2、その他、消費者教育、環境教育、性教育、評価法、男女必修家庭科について福岡や神奈川と三重の比較、近畿圏などの実態、教科書「家庭一般」の比較研究、他の発表であった。私は残念ながら一日めの午後と二日めの午前（第一会場）だけの参加であったので、ここでは主としてシンポジウム「現行学習指導要領で見なおすべきものは何か」を聴いての、概要と感想を述べたい。

パネラーは、四地区の代表（北海道、新潟、愛知、鳥取）。

第一の報告は、食物領域について。加工食品が調理材料としてよく利用されており、食品添加物への批判もない内容についての疑問、伝統食品の見直しを提案した。熊本では、すでに一五年前から原材料からの、各地の知

恵などを取材しての加工調理の実態・実習を研究・実践化してきた。今の学習指導要領をのりこえた実践などを検討し、今後の食教育への展望をもっと具体的に提案してほしい。

第二の報告は住領域について。どの程度の授業が行われているかの調査をした結果、調査地の市内中学校では全く実施されておらず、高校でも少ない取り扱いでしかないことが明らかにされた。このように軽視されている実態は、大学の講座で少ない時間しか履修していないことが大きな理由となっているのではないかと私は発言。高齢社会の学習では、住環境をどう保障するかが重要となってくることを考えれば、住領域の教育内容をもっと充実させていくことは大学も合わせて緊急の課題だといえる。

第三の報告は、北海道地区の家庭科男性教師五名の授業の領域別時間数の調査結果である。教育大では、家庭科履修者の五〇％はすでに男性でありながら、多くは小学校教師、数名が中・高校へ就職する。高校男女必修の授業展開で、食生活や衣生活とりわけ実習・製作中心に費やす時間が、一・二年次の履修のほぼ五〇％を占め、ウェイトが大きい。食領域以外に興味をもたせることが悩みであり、

実験・実習では助手の配置を強く求めている。従来の家庭科が、「家事・裁縫」教育の延長から脱しきれずにいる、その現場に新しく入った男性がやはりそれにのみこまれそうになっている現実がみえて残念であった。女性教師がかつて中学校で、高校で、そして大学でも、食・被の実習中心の家庭科を学んできた、そこからの脱皮を促進する男性であってほしい。男性が家庭科教師をめざす理念を明らかにしたい。

第四のパネラーは、小・中・高の家族領域の諸問題を、教育内容構想原案の紹介と合わせて報告。家族は現在、核家族が多いとはいえず、父子・母子の単親家族、高齢者の単身・夫妻世帯、若・壮年の単身世帯などが増加している。家族についての学習は、私はその人間関係についてのみでなく、個人の生活保障を確立するための社会的システム・サービスの充実と地域の共同体のあり方を検討することが必要であると思う。各地で課題となってきた高齢社会のなかで、家族領域をどう展開するかをさらに具体化していきたいものだ。今後は、家族や保育や住生活の教育内容の充実精力を傾けたい。

私たちは女子差別撤廃条約を生活化する力量を養わねばならない。大学の研究と教育の現場での展開が、もっと連携化されることを希望する。

全私研報告

松原 順子

7月27日、29日、北海道・洞爺湖で開催された全国私学夏期研究会での家庭科教育分科会は、5回目を迎え、参加者は27名でした。共学校15校女子校6校男子校4校からで、現在、家庭科教員の資格を取っている最中という男子校の男性教員の方を含めて男性3名の参加もありました。

レポート数は5本でした。そのうちの男子校である東京・正則高校の実践と、兵庫県下の男子校の家庭科実施状況のレポートを報告します。

●男子校における家庭科教育―一学期間を振り返って― 鈴木博美

生活一般4単位を一・二年で2単位ずつ履修。一年生の実践報告です。

二年間の授業計画の予定は組まれています。生徒の現状・反応に合わせて検討を加えていくため、色々かわってくるということです。9クラスあるので、授業をやって、2クラス目ぐらいになると、生徒の反応によってこ

の内容で9クラスまでやるのは苦しいと、別のものにかえたりしています。

一学期の授業内容は、

(1)生活の中の諸問題レポート（生活一般での学習内容を知らせ、家庭科を学ぶ意義を提示し、それにそった新聞記事を用意させ、内容のまとめと、意見・感想を書かせ、授業の導入とする。）

(2)家族と家庭（核家族化・家族の役割・法的結婚・家制度・男女別姓・旧民法と新民法の比較）

(3)消費生活と消費者（悪徳商法・通信販売・クーリングオフ制度・クレジットカード）

はじめは、男子校での家庭科は受け入れられないのではないかと心配したのですが、生徒たちは、想像以上に興味をもって授業に取り組んでくれています。

教員の理解も多大で、今年成功しろとは言わないから、好きにやってくれ、五年計画でよいと、暖かい目で見てくれています。

実習室は、理科室3つのうち1つを改造して、理科室兼家庭科室として、二学期から使用できます。

生徒たちは、勉強する価値がないと思うとすぐ眠ってしまいます。理論的なものを知りたがり、興味をひくものや勉強するものだ

分かるものは、目が輝きます。男子生徒が興味を示す内容を常に工夫しながらの授業で、奮闘ぶりの伝わってくる実践報告でした。

●高校家庭科の男女共修について―兵庫の男子校の実施状況― 松岡寿子

二年前から勉強会を持って活動してきている兵庫私教連家庭科部会で、兵庫県下の私立男子校15校中の12校、共学校1校における家庭科の実施状況をまとめた報告です。

○実施していない男子校3校。○専任教員を採用している男子校3校、採用する方向で捜している1校。○実習室が設置されている男子校2校。○「家庭一般」4校、「生活一般」5校、来年から「生活一般」を予定2校、未定1校。○「生一」の代替えの2単位はコンピュータに関する学習が大部分。また、学校によっては「生一」の内容でもコンピュータに重点を置いているようで、「家庭科」の必修履修が「情報科」にすり替っている。○学校五日制や新教育課程による単位数減の関係で「家庭科」はできれば実施したくないのが本音。○施設・設備の面では「家庭科」の必修がいままで続くか分からないのに多額の費用を負担したくないという意見がかなりあった。等の調査結果が報告されました。

高校家庭科の状況

— 家連夏季研究集会でのアンケート結果より —

斎藤 弘子

長野市での家連夏季研究集会高校分科会で「高校教育課程に関するアンケート」をとりました。以下、その結果を報告します。

1、集計数 専任教員(97名) 講師(8名)

その他(2名) 合計107名

内訳 国公立90名(内1名は女子校)

私立 16名(共学校9名、男子校5

名うち一部女子校1名 女子校2

名)

2、家庭科専任教員持ち時間数

平均は14・8時間であった。

3、家庭科実施状況

①国公立の状況(男女共学校85校、女子校1校)

・4単位の「家庭一般」を実施82校(95%)

・男女別単位で「家庭一般」(女子4単位、

男子2単位) 2校

・3単位の「家庭一般」1校

・女子校で4単位の「家庭一般」1校

※国公立の高校では、大部分が4単位の「家

庭一般」であることがわかったが、性別教育課程になっている高校が2校あることに、驚いた。高校における男女平等教育へのアピールを常時、行っていく必要があることを痛感した。

②私立の状況

「男女共学校(12校)の場合」

・「家庭一般」4単位は2校

・共学校であるが男女別で女子は「家庭一般」

4単位、男子は「生活一般」2単位1校

・「家庭一般」2単位1校

・「生活一般」3単位1校

2単位4校

1単位1校

男女別単位(女子4、男子2) 1校

・「生活技術」4単位1校

「男子校(3校)の場合」

・「生活一般」4単位1校

2単位2校

「女子校(1校)の場合」

・「家庭一般」4単位1校

※集計した数が少数なので、これを一般的な状況と判断するのは、早計かもしれないが、私立高校の場合は男女共学校であっても、4単位を設定している学校が少数であることがわかった。今後、高校生の心身の発達に家庭

科教育が果たす役割や男女平等教育の課題等、私立高校にもっとアピールしていく必要がある。

4、新教育課程での家庭科教員等の教育条件整備について

・家庭科教員増については、多くの府県が講師で間に合わせているといった状況であった。家庭科教員養成事業は愛知、東京、埼玉で実施され、警戒しなければならぬ状況は大都市をかかえる県にみられる。

・女子のみの時の約2倍の生徒が家庭科の授業を受けているのだから施設・設備の充実は当然生じる問題である。特に、調理室、被服室以外の多目的に使用できる特別教室の必要性が出てきている。

・1クラスを二つに分割する班別学習の要求は大きい。

5、今後、家庭科教育の内容の充実をはかることが最大の課題。

今後の取り組みに必要なことを聞いたが、大部分の人が「家庭科教育の内容の精選、充実、生徒が学習してよかった、男女で学習して楽しいといえる内容にしていきたい、他教科に教科内容をアピールしていく」ことなどがあげられた。

家連夏季研究集会の報告

現地実行委員 牧内 いずみ

七月二十八日から三十日までの三日間、一年に一度という炎暑の中、長野市で開催されました。「国際家族年と家庭科」のテーマのもと、全国から実に三百名を越す参加者があり、家庭科教師はもとより、他教科男性教師、大学生、出版社などの参加もあり、関心の高さがうかがえました。研究集会は、小・中・高・障害児の各分科会にも分かれ、それぞれの討議の柱にそい、活発な討議が行われました。

高校全体会では、三本のレポート発表があり、①共修をめぐる状況と今日的課題、②東京の家庭科教員養成事業反対の取り組み、③大学進学と家庭科教育) 関連してフォーア発言も活発に出されました。大阪では、総合実習室が現場の声も聞かず一方的な基準で押しつけられ、教育内容が限定されることへの不満が出されました。私学では、附属は受験をあまり気にしなくてもよいので家庭科が入りやすいことが報告され、神奈川からは、生

徒・職員すべて男性ばかりで、家庭科を推進する人もいない実情が出されました。長野からは進学校に減単の動きがあること、また家庭科だけが教授内容を問われるが、他教科と互いに公開授業をすることで理解し合いたいと報告がありました。全体的には、教師の意気込みもあり、生徒はごく自然に受け止め、生き生きと学習していることが出されました。

また、生徒自身が「学習」の主体者になれる授業をすれば、生活者としての真の力がつくし、また受験にも有効な教科になるとの報告もありました。

週五日制の問題や、学力論争等でゆさぶりを受けることにもなりますが、多くの報告と発言から力を得、各地で教育条件整備がされ、指導内容を充実し、さらに男女共学家庭科が前進するよう、後の分科会で学習し合うことになりました。

Weフォーラムでは

芦谷 薫

例年のように、家庭科の交流会を1日目の夜に開きました。そこでは、家庭科教師や

組合の働きかけで施設や教員がある程度整って共修家庭科の出版ができたところと、これからは条件整備の要請をしなければならぬが、週五日制の導入がらみで、ことに教員配置の難しさが出されるところがありました。工業高校も含め全高校で、四単位の家庭科、二名の専任と施設整備が確保できる見通しがたっている(大阪)。

組合で共学委員会を作って県教委交渉を行い今年には倍増の採用があり、工業などの男子校にも専任が配置されたがまだまだ不足(山形)。

今までも専任一、講師一というパターン、今年からの授業時間数増に組合などに働きかけて対応したいが、横のつながりが持ちにくく、教員が代われば現状維持もむづかしい。又進学校は、表向きは四単位で、事実上は三単位というところが多いようだ(岡山)。

工業高校は来年からというのに施設設備もなく、教員採用も倍率は高いのにたった二名しか採用されず、条件整備の計画がはなはだ不備(青森)。

教員採用は増えて、大規模校では一人から二人の配置増になっているが、一年後二年後の単位増でさらに必要になる分が問題。又進学校に多いが、一年から三年に渡って「家庭

一般」を2・1・1単位と置いたり(実質三単位か?)、H7年度導入の文理コースの影響で、「生活一般」にしてほしいといわれているケースもあるという(長崎)。

教員養成については、愛知県では、県の養成事業一年間を終えた人が今年から教えている。もとの学校に戻って、もとの教科と家庭科の掛け持ちで教えていることが進学校で多い(校長の意向が強い)。又県は当初五年計画とっていたが、近ごろは四年とっている。一年目の受講者は県のもくろみと違って、過員の教科ではない教科から、又意欲的な人も多かった。

埼玉県では、過員の教科の希望者男性一九、女性一が受講している。まじめに応募し取り組んでいる。一年後の来年度からもとの学校以外のところで家庭科専任として教壇に立つ。

長崎では、日本女子大で免許をとった男性が、一人は新採として進学校に、もう一人は水産加工科で一部家庭科を受け持っている。以上すべての報告ではありませんが、集まった人たちの語りには共修が始まった喜びと希望がありました。

が、各県での実情や事情は異なっても施設設備、教員採用の計画、又教員養成の問題は

依然として共通にありました。各学校内での学校五日制本格実施にむけてまた生徒激減期の受験体制への対応に絡んで、家庭科がまだまだゆさぶりを受けるであろう不安も出されました。

母親大会

「第四回世界女性会議にむけて——平等・開発・平和の行動」分科会報告

榎本 稲子

72年・国連は国際的な婦人の地位向上のキャンペーンとして75年を国際婦人年とし、第一回世界婦人会議のメキシコ開催を決定し、第二回のコペンハーゲン・第三回のナイロビ・第四回は来年の北京での世界婦人会議と、人権尊重・男女平等の理念を実現するために努力を積みあげてきました。

○ 三人の提言とフロア発言

- ① 経済大国日本の女性の地位が立ちおくれしていることを労働面から指摘。
- ② 人権侵害の多くの事例、フロアからの発言も職場での人権侵害にどう関わっているか、裁判闘争の様子等が多くだされました。
- ③ 教育面からは、女子差別撤廃条約を批准

「これでよいのか?!

男女共学の家庭科」

——性を語る会——

石川 由紀

8月18・20日の3日間、東京のアーニホールで標記の講座が開かれた。主催は「性を語る会」(代表・北沢杏子さん)。

一九九四年四月から全国の高校で男女必修家庭科が実施されるようになったが、「家庭

科」の授業内容が「男子も学ぶ料理、裁縫」の域を脱していないのではないか——人間関係学としての家庭科、男女共生学としての家庭科であるなら、婚姻法、戸籍/国籍法など現行の法律などきちんと学ぶべきだというのが、この講座を企画した北沢さんの主張。

講座は一日目が「かしこい離婚・結婚・再婚」、講師は紙子達子弁護士。二日目は都教組家教連の斉藤弘子さんの「男女必修の家庭科をからとるまで」の話と、神奈川大学講師の星野澄子さんの「夫婦別姓——生き生きライフ」、三日目にはビデオやフリートークもあるという三日間。三〇人限定で一日六時間ぶつ続けの講座と討論会に、参加者は日ごろ鬱積していた性差別社会のうっぶんを晴らすかのように、意気軒昂だった。

斉藤さんの話の内容は、一九四七年に教育基本法が公布され、両性平等の教育が提唱されてから、八九年の学習指導要領改訂で、家庭科四単位男女必修と明記されるまでの三〇年間の実施までの間いと現在の授業内容の紹介であった。

その中で、被服実習では女子生徒のダイエツトに焦点を当てるなど、いわゆる「料理、裁縫は女子に」のイメージを払拭するように授業内容を変えてきているとの話だったが、参

加者からは、食生活に関しては男子生徒も同じだし、被服実習で作るものが変わっても、『イメージ』が変わったといえるのかどうか? 現在、家庭生活にとって迷いの多いのは家族の捉えかた、男女のありかたで、中・高校生の求めるものでもあるのではないかと? いったい家庭科をどう捉えているのかという、疑問のささやきが聞こえていたようだ。

時間的制限のある中、議論にはなっていない方ばかりだ。(この連続講座の記録の欲しい方は同会へ)

男女共同参画型社会づくりに向けての全国会議

石渡 仁子

去る六月六日総理府に男女共同参画室と男女共同参画審議会が設置されました。これらは一九七五年の国際婦人年以來婦人団体を始め各界から要望の強かった法令に基く組織として新に設置されたものです。

七月十三日には、男女共同参画型社会づくりに向けての全国会議が開催され、全国津々浦々から諸団体(全国組織の女性団体参加数十二)諸機関の方々約千五百名が集い、熱気

あふれるものでした。村山総理の挨拶、政府報告後のシンポジウム、男女共同参画型社会づくりを目指して、良きコーディネーター樋口恵子さんの下色々な女性問題を扱いながらユーモラスなものでした。パネリストは梅原猛・諸井慶両氏で、梅原さんは学者として、諸井さんは企業家として今までの女性の活躍と今後の在り方を述べて下さいました。わけでも諸井さんの最後は男性の心得が大切であり、男性が家庭科をやる事は必要であり、ご自身も生活的に自立するようにしている。退職後は家事に専念したいとまで言って下さったのは印象的でした。このように国の機関ができたり、第一線の男性が大勢の女性群の前であったとは云え、今後の女性の活躍に力を貸す発言をして下さった事は心強い限りです。私達は一人一人それぞれの馳せ場にあって、問題を認識し、力を合わせて頑張らなければならぬと考えさせられました。

会、の樋口恵子世話人は男女共同参画審議会の委員です。連絡会の関係では中村紀伊さん、山野和子さんも委員になっていきます。

国際婦人年

連絡会の報告

和田 典子

この5月から8月にかけて、連絡会は全体会、教育・マスメディア委員会、ユニフェム委員会だけでも、あわせて13回も集会が持たれましたが、ここでは紙面の都合上、その概要を報告することにいたします。

A、今年度の活動方針

- ① 年会費を一万円から一万五千円に値上げ（郵送料の値上げはユニフェム活動への支出増のため）が承認されました。
- ② 担当委員の改選はあと二年延期します。
- ③ 各委員会の報告と提案が承認されました。共通点は、当面の課題への対応と、北京会議にむけて、「民間行動計画」の「何が前進し、残された問題は何か、今後の重点課題」について話し合い、新しい「行動計画」を立てる、というものでした。そのうち、教育・マスメディア分野の方針は次の通りです。
ア、小・中学校の検定教科書の検討結果を総括し、関係方面に対する要請行動を行う。

イ、国際家族年のシンポジウム討議をふまえて、関係省庁との意見交換をする。

ウ、「子どもの権利条約」「国際家族年」の理念を実現するための条件整備を求める。

エ、北京会議にむけて必要な準備を進める。

オ、学校や行政名簿の見直し、マスメディアに対する男女平等、人権尊重を求めるなどの持ちこし課題を検討する。

④ 連絡会ユニフェム委員会

国内委員会の地域委員会として承認されたので独自の事業やイベントの企画などを推進します。当面シールや手描き絵はがき（六枚セット五〇〇円）コピー（二〇〇グラム一袋一〇〇円）の頒布をすすめます。

B、第四回世界女性会議・NGOフォーラム参加について

① ESCAP地域会議、及び北京会議の政府代表団に民間および女性団体の代表を加えるよう政府に要請しました。

② ジャカルタの地域会議に、中村道子、奥村氏ら五名がNGOとして参加（自費）

③ 一九九五年日本大会について
11月22日に開催しますが、財政をどうするか問題。NGOフォーラム参加もあわせて約一千万円が必要と予測されますので、東京

女性財団などに援助を求める準備をします。

④ 世界会議への日本の政府報告には、夏号既報の総理府男女共同参画室が行った「民間から意見をきく会」の発言をとり入れて作成し、本部事務局に送られました。

C、東アジア女性フォーラムについて

夏号の記事と重複する部分もありますが、八月末現在までに判明している事項をお知らせします。

経過→昨11月マニラで行われた「開発と女性に関するアジア・太平洋NGOシンポジウム」で、松井やより氏らにより「開発」は女性に何をもたらしたか？を、東アジアの視点で総括しようということで、カントリレポー
トを出すことが合意され「フォーラム」の日
本開催が決定しました。

参加国・地域→中国、韓国、北朝鮮、モン
ゴル、日本（五か国）、台湾、香港、マカオ
（三地域）

日時→一九九四年10月21日（金）22日（土）本会
議、於かながわ女性センター（江の島）。

10月23日（日）公開シンポジウム、於日佛会
館（東京・お茶の水）

組織→実行委員長（中村道子）、事務局長
（羽後静子）、運営委員長（松井やより）、

はかに多数の実行委員と運営委員により実施。

事務局→横浜市戸塚区上倉田町一五一八明
治学院大学国際学部武蔵小路研究室内。

TEL 045・826・4971、FAX 0
45・826・4907 東アジア女性フォー
ラム実行委員会

なお、会議の参加には協力金三千円と申込
が必要です。また東京シンポの入場券は一枚
二〇〇円で後日配布される予定です。

D、国際家族年について各省庁にきく

夏号でお知らせした連絡会主催の国際家族
年シンポジウムをふまえて、5月20日には参
議院議員会館において、関係省庁担当官の出
席を求め、各省庁の対応状況について説明・
質疑・意見交換を行いました。

総理府の事務局、婦人問題担当室、外務、
文部、厚生、労働、農水、法務の各省との五
時間におよぶ話し合いを通じて、あきらかに
なった主なことは、次の通りです。

ア、男女共同参画審議会の設置が決まった
こと（中村紀伊、山野和子の両氏が委員に加
わった）

イ、ILO一五六号条約の批准がゆきづまっ
ているのは、8条、11条と国内法との整合性
に問題が残っていること。

ウ、厚生省は少子対策を重視し、児童環境

基金三〇〇億円を創設し、就労と子育て両立
支援などを推進する予定（傍点筆者）。

エ、法制審議会の民法見直しは、近日中に
試案を提示する（7月に発表されました）。

などではキャンペーンなどの記念行事や
継続事業にとどまり「家族年」理念への積極
的な対応は不十分で抜本策はみられませんでした。

E、慰安婦問題について女性国會議員と懇
談会をもつ

6月27日、憲政記念館において衆議院2名
（社）参議院10名（社6、共2、民社1、無
1）計12名から、予め送付しておいた質問事
項に回答する形で慰安婦問題への対応につい
て意見のききとりを行いました。なおアンケー
トの回答だけで、当日欠席の方々は衆議院5名
（公2、共2、自由1）参議院10名（社6、共
2、公1、日新1）計15名でした。女性議員
の総数は52名です。

右の発言とアンケートを集約すると「侵略
戦争」は全員承認。「謝罪決議を国会で」も
ほぼ全員賛成。しかし補償のあり方について
は意見がわかれた。これらを受けて連絡
会としては左記事項の要請を、衆参議長と総

理に申し入れました。

一、侵略戦争・植民地支配に対する国会で
の謝罪決議を実現すること。

一、国会内に侵略戦争・植民地支配下での
事実の調査・補償等のための特別委員会を設
置すること。

一、日本政府は国会での謝罪決議にもとづ
いて、「慰安婦」とされた被害者にたいする
誠実な補償をおこなうこと。

一、資料館、平和祈念館の展示や教科書に
よって、侵略・蛮行の事実を正しく伝え、再
発を防止するための歴史認識を広げること。

F、教科書の検討作業すむ

教育・マスメディア委員会の教科書検討は
小学校五・六年の国、社、家、道徳の検討結
果をまとめ中学校も国、社（公民・歴史）技・
家、道徳の検討をほぼ終り、小・中通しての
集約と要請書の作成段階にこぎつきました。
九月中には終了し、関係方面への要請行動に
入る予定です。

各地、各学校の状況をおしらせ下さい。原
稿はなるべく一行二十字の縦書きで、千四百
字位まで。はがきや世話人への電話でも結構
です。（編集部）

世話人会報告

〈六月四日〉

夏号の発送があり、手を動かしながら、テレビの話題から。NHKの「くらしのジャーナル」は全体的に好意的に扱っていたけど、画面は、相変わらず料理や裁縫が多い。「男と女の生活学」はすでに八回ほど放映しているがどういふ人を対象にしているかはつきりしていない。こういう意見は、どんどんテレビ局に言っていきましょう。

議題は

一、高校への働きかけ。和田さんが「高校訪問の手引き」という文を作ったのでこれを参考にし、身近な高校で家庭科をやったない所を訪問し、現状を聞いてくる。

二、マスコミへの働きかけ。テレビ局への投書、電話や「イメージ一新」のビジュアルなど、積極的にやっていく。

三、夏のいろいろな集会に参加しよう。パンフ等の販売や各地の情報交換をする。

四、会報秋号に向けて。 (磯部 幸江)

〈七月九日〉

●各新聞でも共修家庭科が取り上げられています。男子が一緒に学ぶ家庭科は大丈夫かと興味津々なのは、周りの大人ばかり。生徒はごく当たり前に受けとめているという現場

からの報告の後、次のような話し合いをしました。

●連絡会の北京会議にむけての実行委員会に
関して、分担金は一番少ない額のランク(3万円)を当会は負担することに。

●連絡会・教育マスメディア委員会の教科書
検討作業の報告(15ページ参照)。

●早稲田高等学院訪問の報告(7ページ参照)。

●神奈川県私立男子校の調査及び海城高校、
目黒高校の訪問も今後行う予定。

●埼玉県立大宮高校の問題についての報告
(2・3ページ参照)。

●文部省への働きかけをし、きちんとちゃんと
毎年全国的な公私共の高校対象の実施状況調
査をさせ、データを手にいれたい。

(芦谷 薫)

〈八月一日〉

一、会計についての報告(覆本)

二、各集会の報告(8・13ページ参照)。

三、北京会議に向けて連絡会では

○日程、行動を報告、話し合いを行う。

○他、参加予定者100名と予測し交渉する。

四、北京会議のために、会、としても資料を
つくる。

五、東アジア女性フォーラムの資金助成につ
いて

○団体で五千円の負担、他の不足分はカ
ンパと入場料で賄うので支援の要請あり。

六、各地、集会からの情報をどう生かすか。

○家庭科四単位必修の実施により、子ど
もたちにどのような力がつき、どう啓蒙
されたか、新聞の論壇とか視点等の欄に
投稿した方がよい。

七、半田さんからの報告

○会報発送後、イメージ一新について各
大学の先生方や、一般市民からの反応が
多かった。 (大平初枝)

〈九月三日〉

◎中嶋世話人のスウェーデン視察の報告、東
京、神奈川の共修実施状況についての報告、
各集会の報告などをきいて、次のように話し
合いました。

●家庭科はあいかわらず家事裁縫をやってい
ると思いいこんでいる人がまだまだ多い。

●四単位履修という届を出しながら実際には
家庭科はやらない、という学校もある。父母
や生徒から情報を得たい。生徒手帳など集め
てみたい。その上で働きかけを。

◎文部省で家庭科履修の実態調査をやってい
るときいたので和田世話人が問い合わせたと
ころ、男女必修は実施されている筈なので文
部省として調査する必要はないという返事。

近く連絡会で教科書検定について要請書を出
すので、その時に教員の配置などについて申
し入れようということになりました。要請書
の内容も検討しました。 (梶谷典子)